

クラウドワークフローの要となるアポジー拡張ツール

APOGEE Drive AutoPilot

日本アグファ・ゲバルト株式会社（本社：東京都品川区 代表取締役社長 松石浩行）は、プリプレスのファクトリーオートメーションを強力に推進する拡張ツール「APOGEE Drive AutoPilot（アポジー・ドライブ オートパイロット）」の販売を7月26日（木）より開始します。

近年、印刷会社に入稿されるデータは、印刷発注者のDTP環境の変化などにより多種多様なデータ形式になっています。そのため、多種多様なデータを製造に最適な形式に整える必要があり、製版前の準備工程において非常に大きな手間と時間が必要です。アグファは、小ロット多品種化が進む市場の中でいかに多くのジョブを省力化してファクトリーオートメーションを実現するかが、印刷会社における今後の重要な取り組みになっていくと考えています。来たるIGAS 2018では究極のオートメーション化を推進する「APOGEE Drive AutoPilot（アポジー・ドライブ オートパイロット）」を発表します。

アグファの世界初のクラウドワークフロー「アポジー・クラウド」に続くクラウド型の製品であり、専用サーバーが必要なく手軽にはじめられるサービスです。IGAS 2018では製品の説明とデモを実施します。

製品概要

アポジー・ドライブ オートパイロットは、クラウド型ファイルストレージサービス「アポジー・ドライブ」の拡張機能です。入稿されたファイルの様々な情報を読み取り、ルールにあわせて自動振り分けやデータチェック、さらには、カスタマイズ可能な様々なレポートを作成します。

例えば、入稿データがWordファイルであった場合、それを自動判別し、PDFに変換する必要があることを担当者やクライアントに自動でお知らせします。また、面付け工程の進捗、複数のジョブをギャンギングした面付け数のレポートを構築し、必要に応じてMISとの連携を図ることも可能です。

今まで人の手間と時間がかかっていた細かな作業を自動化し、印刷会社ごとの運用に合わせてカスタマイズされた、入稿からプレート出力までのオートメーション化を提供します。

製品の主な特徴

- パッケージ製品の機能に限定されない自由なカスタマイズ環境
 - ご使用のシステム環境に合わせて導入可能
 - アグファ アポジーワークフローとの連携により、入稿からプレート出力までのオートメーションを実現
 - クラウド型のためサーバー・ソフトウェアの管理が不要
 - 常に最新バージョンの環境を提供
 - Asanti（アサンティ）と連携した、大判データの仕分けやカラススペースなどの自動データチェック
- ※ Asantiは、アグファのワイドフォーマットインクジェットプリンタ用RIPです。

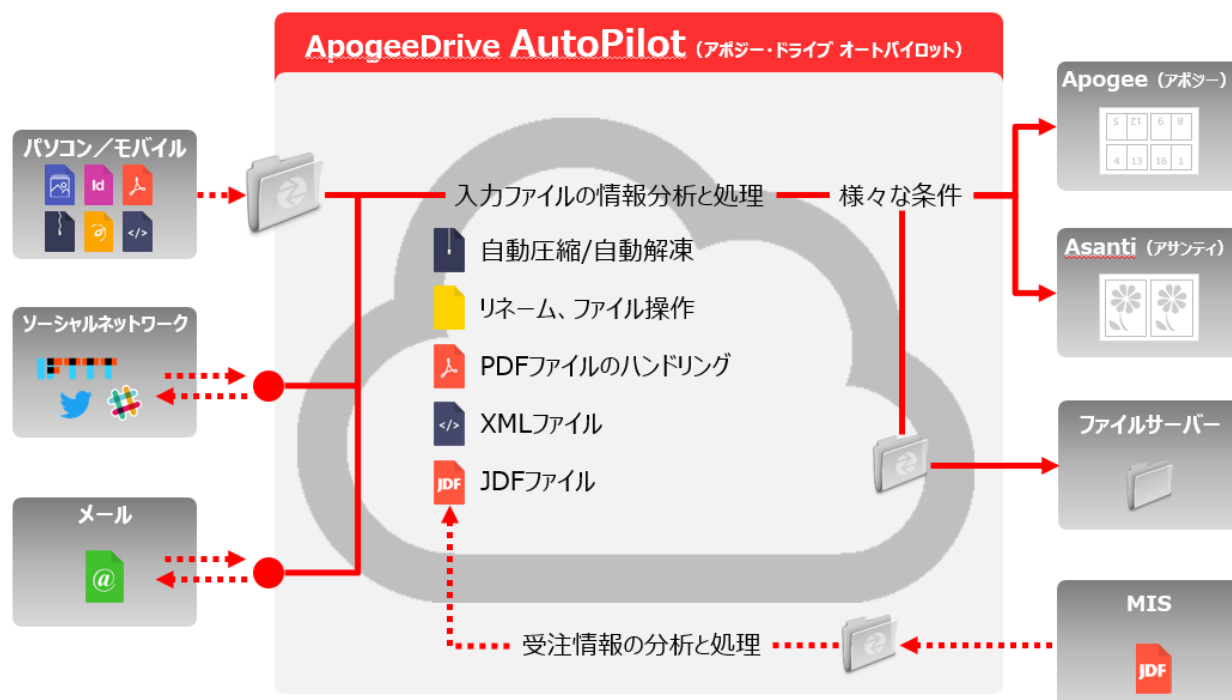
連携可能ソフトウェア

- APOGEE Prepress Manage
- APOGEE Prepress Integrate

販売開始日： 2018年7月26日

希望小売価格： 構成により異なります。
弊社 マーケティング本部 までお問い合わせ下さい。

イメージ図



アグファについて

アグファ・ゲバルト グループ（本社：ベルギー、モーツェル）は、世界有数のイメージングメーカーであり、グループの2016年の全世界売上高は25億3700万Euro（ユーロ）となっています。

印刷業界および医療用の写真・デジタル画像システム、などの各事業を展開しています。アグファのグラフィックシステム製品としては、プリプレス工程で必要とされる各種フィルム、ペーパー、刷版、ケミカル、自動現像機を始め、カラーマネージメントシステム、CTPシステム、ワークフローシステム、インクジェットプリンタ、インクに至る総合デジタルソリューションが含まれています。

アグファは世界40の国と地域に支社を置き、100カ国以上でグローバルに展開しています。

このプレスリリースに関するお問い合わせ先：
日本アグファ・ゲバルト株式会社 グラフィック システム事業部
マーケティングコミュニケーション部 大岡 晶
電話：03 (6420) 2010 FAX：03 (6420) 2011